

## 第5回

# 上野地区まちづくりビジョン策定委員会

日時：令和元年12月4日（水）

15：00～17：00

場所：台東区役所

10階 1003会議室

**【公開用】**

午後 3 時 0 0 分 開会

1 開 会

2 座長挨拶

3 議 事

(1) 第 4 回ビジョン策定委員会の振り返りについて

<事務局より資料 1、参考資料 1 について説明>

○座長 ただいまの説明に関して御質問、御意見があればいただきますが、前回の振り返りでございますので、もし何か補足があるようであれば、後ほどの議論の中で補足をしていただくのが一番よろしかろうと思います。きょうは時間も限られていますので、少し先に進めてからまた御議論をいただこうと思います。

(2) 基盤整備部会における検討結果について

○座長 それでは、続いてきょうの資料の説明になりますが、2 番目の議題に入りたいと思います。「基盤整備部会における検討結果について」御説明をお願いします。

<基盤整備部会部会長より資料 2 について説明>

(4) ビジョン（中間のまとめ）について

○座長 前回の資料をベースにして基盤整備部会で御議論いただいて修正したところを中心に報告をいただきましたが、全体像を見ないとよくわからないので、同じくまちづくり部会の検討結果も御紹介いただいた後に全体を説明することになっていますが、まだ部会長の代理がお越しでないので、先にもう一度振り返る意味で全体像を説明していただいて、

先ほどの基盤整備部会のものが反映されているわけですが、前回から大分時間がたちましたから、もう一度おさらいも兼ねて、どのようにまとめているのか、あるいは先ほど来実務的にはかなり関係者間でいろいろな議論をやっていますというお話で、関係している方たちについてはそれぞれ御理解いただいているのかもわかりませんが、それとこの報告書との関係はどう考えるのかというのを最後に付言していただいて、中間のまとめ案の説明をまずしていただいて、一緒に議論したほうがわかりやすそうな気がしますので、先に全体像を説明していただだけませんか。

#### <事務局より資料4について説明>

○座長 参考資料1がお手元にあるかと思いますが、これが前回9月に議論をしていたときのペーパーでございます。それと今の御説明いただいた中間のまとめという案を少し見比べていただくと、どこが直ったのかということがより鮮明にわかろうかと思えます。写真についても随分御議論がありましたので、その辺の修正も加えているということですし、前は全体を示す絵がはっきりと描かれていなかったのですが、そこが今回は少し、模式ではありますが、出ているということだと思います。見やすくなったのか、あるいは全体のシナリオとしてこれでいいのかについて再度皆様から御意見をいただこうと思えます。

#### (3) まちづくり部会における検討結果について

○座長 まちづくり部会長の代理の委員がお越しでございますので、ここに至る前の間に、まちづくり部会で議論していただいたものも反映されているということですから、本来ならば部会長から御説明いただくのですが、きょう部会長はどうしても御都合がつかなかったものから、恐縮ですが、代理の委員から御説明いただいて、まちづくり部会での議論がどのように反映されているのかを御紹介いただければと思います。

#### <まちづくり部会長の代理の委員より資料3について説明>

○座長 ありがとうございます。これまで2つの部会で御議論をいただけてきて、きよ

うはそれを1つにまとめ直した形になっているのですが、先ほども副座長からお話があった個別の具体的な話は関係の方と実はいろいろ調整をしていますと。そのエッセンスの方向性がここに書かれているということなのですが、これからのビジョンの取り扱いとか、その辺のことももう少し付言していただいたほうがきょうやろうとしていることの意味がわかると思うのですけれども、最後に資料5がありますので、これも一緒に説明してしまってからみんなで議論しませんか。

### (5) 今後の検討の進め方について

#### <事務局より資料5について説明>

○座長 この辺もぜひ御意見をいただこうと思いますが、資料5にあるとおり、これまで2年間ぐらいかけて全体の方向性の議論をしてきたわけでありまして。ただ、このメンバーで議論を重ねてきていますが、多くの区民、都民の方にも御意見を聞くべきだろうということもあって、これからパブリックコメントの手続を一旦やらせていただいて、そういった御意見も踏まえてもう一度最後にまとめの会をやらせていただいて、それで一応ビジョンとしては一旦のまとめをする。ただ、具体的な個別事業がきょうのビジョンにも詳細に書かれているわけではないので、引き続きその事業の中身を詰め、あるいは具体的な事業の推進を図るために来年度も似たような組織を継続的に持ちたいというのがきょうの区の説明かと思えます。

そのことを前提にしつつ、先ほどお話しした参考資料1という前回のビジョンときょうお示しいただいた資料4との比較をしていただくと、例えば参考資料1は目次が余り書いていないのですけれども、2枚ほどめくっていただくと、「本ビジョンの検討フロー」というのが左の下に黒いバーチャートのようなもので引っ張ってありますが、きょうの中間まとめのほうは2ページの下に目次が具体的に書かれています。前回までは、比較的歴史、現状、あるいはこれまでの上野の課題、期待、あるいはこれから何を大切にすることかということについての議論が多かったのも、やや将来像が薄かった。実際前回の参考資料1の後半はかなり図がまだ空白で入っていて、はっきりした議論ができていないところだったので、今回は一旦中間のまとめですから将来像を書き切ってみようということで、前半は少しまとめた形になっているということかと思えます。

大きく違ってくるのは、将来像のあたりの書き方が、例えば資料4の中で9ページ、10ページぐらいにどのように考えて将来像を描こうとしているかということが、より明示的に「杜とまち」という言葉とそれを重ね合わせるというところで全体を考えていきたいということをお示しし、具体的にはその次のページ、11ページ、12ページ、特に11ページの左の下に、新しいプレーヤーが入ってくる、そういうことも期待しているという意味合いの概念図が描かれていて、そういう前提のもとに、それぞれ杜では何をするのか、まちでは何をするのか、重なったところでは何をするのかというのがその次の13ページ以降に書かれている。これもこれまでは文言だけだったわけですが、例えば14ページの右の下に杜の部分の図があって、これで全部わかるかどうかという議論はあるのですが、杜としてはこんな方向のことを考えているということが書かれていて、16ページには右の下に、まちのほうではこんなイメージのことを考えている。それを重ね合わせて17、18、あるいは19、20というあたりが重ね合わせの考え方が示されていて、最後は全体を2つの図を重ね合わせるとこんな感じというのが21ページ、22ページにある。

それで、これまでの杜とまちのさまざまな活動の方針をもう一度重ね合わせて見てみると、ここでは7つぐらいの項目に分かれていて、国際競争力を強化する、文化・芸術の創造発信拠点の形成をする、あるいは歩行者優先のわかりやすい都市空間をつくる、国際都市の顔にふさわしい駅前空間をつくる、世界中の方をお迎えするおもてなし機能を強化する、あるいは上野を訪れて住み、働くための都市機能を強化する、防災力を強化する、そしてマネジメントを継続してやる、こういう7つの軸でまとめ直している。

この7つの軸に沿って23ページに時系列で短期、中期、長期ぐらいの目標感を持ってやったほうがいいのではないかという前提で、短期的には2020年代、具体的に言うと、例えば寛永寺さんが2025年に400年を迎えるとか、そういったある種の節目があることを前提にしつつ、そこまでにできそうなことを短期としてやっていったらどうか。中期は上野駅の落成100年、2032年あたりが目標ではないか。長期的には台東区が発足して100年、2047年ぐらいを目標にしてというので、ある種のターゲットをそれぞれ置きながら議論をしていきたい。実際にはとりあえずは短期の話が大事なのですが、これもこの中のまちづくりのビジョンとしては余り具体的には書いていなくて、一旦はこの方向性を区民、都民の方に見ていただいて、これでよろしければ、来年度以降、それに沿ったより具体的な事業の中身を詰めて、短期的なものから順次やっていくということ

考えられているということでございます。

個別の事業のあり方についてはこれまで幾つか、実は高見副座長のところで調整をしながら重ねられているので、事業者の方にとっては少しイメージがあろうかと思いますが、まだ残念ながらそれを全部出すまでには至っていなくて、全体の方向性を確認していただいて、これでよしとなった段階でもう一度仕切り直しをして、来年度から事業の話として組み立てていきたい、こういうのがきょうの事務局側の説明かと思えます。

それでは、そういう事務局の考えている案について、いやいや、まだ不十分だとか、こういうことをもっと足せとか、あるいは来年度に向けてはこんなことを考えるべきであるとかいう御議論をきょういただいて、パブリックコメントをかけるまでに直せるものは直してもいいわけですよ。ただ、全員が集まることは難しいので、きょういただいた御意見の中で大事なものについては、大変恐縮ですが、最後は私と事務局に取り扱いをお任せいただいて、一旦はパブリックコメントをかけて、最後の各区民、都民からの御意見も含めてもう一度全体会をやらせていただいてまとめることにさせていただきたいと思えます。

#### 質疑応答

○座長 それでは、どこからでも結構ですので御意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

○オブザーバー 13、14ページで、特に14ページで袴腰広場とアートクロス、それぞれの機能についてももう少し詳しく書いていただきたいと思っております、いわゆるアートクロスの役割は、谷中方面とか根津方面からのアクセスをよりよくしようということと、ここまで来たところの上野の入り口としてのインフォメーション機能みたいなところもあわせると。それは袴腰広場、上野駅の公園口周辺、その辺の地域のことについても同様の入り口としての機能の強化はもう少し強く訴えてもいいのかなと思っております。

それと、上野文化の杜では現在インクルーシブのプログラムを実行しております、それはいわゆる社会包摂的な内容で、不自由な方も小さなお子さんたちも誰もが芸術に興味があるような上野の杜にしたいということでプログラムをつくっておりますので、そういった世界に先駆けた機能を持った上野公園のあり方ももうちょっと訴えていいのかなと思っております。

このページについては以上でございます。

○座長 14ページの右下の図の点々で囲ってあるところが「回遊性を高める拠点整備」と書いてあるけれども、まだ説明が不足しているのではないか、もうちょっと付言できないか、こういうお話が1つですね。それから、全体としてインクルーシブ、もう少しかみ砕けば、ユニバーサルデザインだとかそういうものも含めて誰しものこの杜に参画できるということについてどこかで表現をできないかと。どこがよろしいですか。

○オブザーバー 杜3-③とか子供たちの知育を視野に入れたとか託児サービスなんかのそういうところと一緒にしてもいいのかなと思いますし、バリアフリー対応の中にも込めてもいいような気もいたします。短い言葉でなかなか難しいとは思いますが。

○座長 どこかでそれに類することを表現として工夫しましょうか。12ページには一応インクルージョンみたいなことは書いてあるのですが、それが杜のところへ来たときに消えているかもわからないから、どこに入れるのがいいかは少し考えさせていただきますけれども、御趣旨は何となく呈したものにしたいと思います。

○オブザーバー お願いいたします。

○事務局 ありがとうございます。UENOYESに代表される社会包摂の考え方については前回の策定委員会で御提示をさせていただいていて、今回、UENOYESのイベントでくくってしまっているということもあって、UENOYESというイベントを通して訴えたい、出したいことが多分あるかと思いますが、それに書き方を工夫させていただこうということ、また、アートクロスについても、吹き出しで図面の左上に書いてございますが、そこら辺の書き方とか工夫させていただこうかと思いますが。あと袴腰の持つ、そこでの期待する機能をもう少しということだと思いますので、それもまた工夫してみたいと思います。ありがとうございます。

○座長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 全体の話なのですがけれども、ずっと何回かやってきて、基盤整備さんの写真が入ったのが全体として初めてなのです。とてもすばらしい写真が入ってやっとイメージが湧いてきた。繰り返しになりますけれども、この提案の最初、2年前に私が副都心上野でやっていたビジョン素案というのをプレゼンしまして割と失笑を買った記憶があるのですが、そこで一番その中で集約されるのは、6ページにあります上野の課題というところで、駅と道路がまちと山とを分断しているという課題、問題意識から2つに分けて、杜もさらにすばらしくし、まちもさらに育てていこうというところにつながり、その結節

点である杜とまちを重ねるところが一番具体的にもイメージしにくいし、この問題の一番の根幹をどのように解決していくかというところが一番フラストレーションというか、もやもやしたところだったとっております。今回こういうすばらしい写真が幾つか出てきたとき、2年前を思い出してじくじたるものというか、興奮するのですけれども、副座長が冒頭おっしゃったように、実はいろいろなことがあるのだと、ただ、具体的な話があって調整するのだけれども、そんなことはなかなか出せる問題ではないのですが、こういうイメージが出てくると、ますますまちとしては、まちづくり部会としてはいわゆるソフトを中心にどうしようというのはあるのですが、基盤としてなかなか難しいんですが、上野が本当にこういうものができたということは本当に具体的に変わったなというところがある。

その中で最後にスケジュール感なのですが、7つの大きい項目に集約され、要するに21、22ですね。3番目の「国際都市の顔に相応しい駅前空間の創出」というところが一番キーかなと思ひまして、それでこの10年間調査・検討というと、本当にそこまで来ているのなら教えてよというか、早く言ってよという気持ちにどうしてもなってしまうので、こういうものがあると、まちづくりに対する関心も深まるし、上野をさらにいいものにしていこうという思いは副都心上野でやっているメンバーの熱意もありますので、そういうものが出せる範囲で、あるいは調査・検討でもここまでというので、この10年間調査で少し寂しいという感じで、ここをどうするのか。それはきっと今後の推進会議においても大事な事かなと思ひて、本当は1年前にこれが出て、ここからぱっとあと1年やると本当にいいのかなと。でも、2年間でここまですばらしいものが出てきているわけですから、これは次の話になりますけれども、上野まちづくり推進会議の熱い継続的な議論をさらにしていけるような体制づくりを台東区にもお願いしたいし、また副座長にもお願いしたい、座長にもお願いしたいということでございます。

○座長 特に23ページの短期のところ「調査・検討」と書いてあるのが「国際都市の顔に相応しい駅前空間の創出」、これが10年間何もないように見えるのは寂しいじゃないかと。

○委員 それ以外にもやはりもう少し、たまたまちょうど、確かに20年代、30年代、40年代という分け方はわかりやすいし、またイベントとしての節目もいいところにあるかと思うのですけれども、全体にこれだけの変化の激しい中、最近渋谷とか見に行くと、もう少し早くしたいというか、いずれにしても、ここまでせつかくいい案ができつつある



中で、これを早く深度化したり進めたりというところでもう少しドライブをかけたいな、そんなことを今思っています。

○座長 何かコメントされますか。

○副座長 確かにここだけ見ますと非常にそのように見えます。ただ、結構苦しい書き方がしてあって、20年代、30年代で、その下に具体的な節目というのが、先ほど座長からもありましたように、寛永寺さんの400年、2025年とか、上野駅の100年、2032年とか、ある意味2032年も30年代の一部でございまして、一応そういう思いはこもっているつもりです。

○委員 今、委員の話したことに近いのですが、具体的にどのとき何をやるかということがまず一番大事で、それをはっきり示してもらいたいと思う。上野駅のいわゆる時が来たときの風格と正面性みたいなものを従来から我々は思っているわけですがけれども、あの前のタクシー乗り場だとかああいうのを何とか整備できないかと。こういうことが例えばイコモスの世界遺産の西洋美術館の関係でできないのか、できるのか、そういったことによって変わってくると思います。もちろん山と駅とまちという中心にある三位一体の連携は非常に大事だと思いますし、そうしないと上野のパワーが出てこない。やはり駅の改良、駅前広場の改良とか、そういったビジョンも示してほしいとまず思います。

それから、今具体的にできていることは、公園の北側の改札の移設とロータリー周辺整備、これは非常に歩行者の安全性という観点から、外国人、国内の観光客に対して非常にプラスになるし、それを含めてもう一つそういったことをやっていただきたいと思っています。

それから、袴腰も正面ということで、上野の顔をとにかくこれからつくってほしいと思います。非常に歴史、伝統、文化を誇る地域で、今、渋谷を見に行っていて、委員が言っていましたけれども、私も一緒に見に行ったのですが、全然違う歴史性、伝統、文化の違いがありますので、そこはやはり魅力として生かしていきたいという気がしますので、具体的に中間のまとめという10年ビジョンがありますけれども、何をどうやっていくかという地域整備の関係で示してほしいと思っております。

以上です。

○座長 事務局で何かお答えになりますか。よろしいですか。要するにもう少し具体的なプロジェクトの話をみんなが共有できないかということだと思っております。

○事務局 ありがとうございます。個別の事業者さんと話を詰めて、そのことがどのぐら

いの段階で表に出てくるかというのが正直言ってなかなか難しい部分ではあるのですが、24ページの推進体制にも少し記載してございますが、基盤整備の推進部会では、方針をつくっていくことに向けた課題の整理や、その課題をどうクリアしていくか、また、事業の深度化をあわせてやっていく必要があると考えてございます。当然そういう方針をつくるのであれば、財源やそういうこともあわせて考えなければいけない。区とそれぞれ事業者の役割も考える必要があるだろうということですので、来年度につきましては、先ほどそういった部会を立ち上げて個別の検討状況を必要に応じて部会に上げていくといったことで申しあげましたけれども、現時点ではなるべくそういった、10年間で調査・検討ということでかなり漠としているのですが、早い時期に出していきたいとは考えてございます。ただ、では、ここで3年とか4年とかいったことはなかなかここでは断言できない部分がございますが、なるべく早い時期に、また短期で節目となる時期が幾つかございますので、そういったターゲットを頭に入れながらやっていきたいということでございます。お答えになっていなくて申しわけございません。

○座長 苦しそうな答弁ですけれども、先ほど来渋谷の議論が随分出ましたが、渋谷も、2007年でしたか、ガイドラインというのを最初につくったのです。それは結構文言で、何を大切にするかというのが書いてあるような、具体的に何をどうするかというプロジェクトまでは書いていないのですけれども、裏にはそういう議論をしながら、こちらの方向でみんなに行こうということをまず書いて、その後、より具体的話が詰まってきた基盤整備方針という具体の何を誰がどうやってやるのかというのが詰まっています。

では、そのガイドラインは意味がなかったのかというと、実は何かあったときはガイドラインに戻るのです。何か動かすときに何をやるのだというときは、みんなでこういう方向で議論をしたのだということを前提にして全てのことが動き出すという意味においては、例えば今回まちと杜を必ずくっつけていこうという、このことをみんながよしとするならば、個別にばらばらに起こることはないということになってくるわけで、必ずそういう方向で何をやるにしても持っていこうという、そのことがまずきょう皆さんの中で合意いただければ、それは1つのステップは上がっていると思うのです。

ただ、確かにこれまでもいろいろな議論があるので、一体何をどうするのだ、もっと早く出せというお気持ちもわからないわけではないのですが、先ほどの事務局の説明のとおり、まだ口の中でもごもご言っている感じがあって物足りないところはあると思いますが、決してとまっているわけでもないということは、来年度もこれを引き続きやるということ

を意思表示している以上、進めていくということですよ。そのことについては強い意思を持ってやっていただける。大丈夫ですよ。

○事務局 はい。座長、フォローしていただいて済みません。区としてはそういった意思を持ってこのビジョンの中間のまとめにそういう推進体制を書かせていただいておりますし、今、渋谷の事例がございましたけれども、台東区の上野地区のまちづくりの場合は、ある意味台東区がそういったビジョンをつくって、事業者の方を、言葉としてはおこがましいかもしれませんが、引っ張っていくような、牽引していくようなことで一緒にやっていくというイメージで、このビジョンがきっかけだと考えてございます。

○委員 実は私は黒門小学校というこの地区の小学校を出たわけですがけれども、その同窓会を行ったりすると、ほぼ全員から突き詰められます。何を突き詰められているかという、上野駅はどうしてきれいにならないのだということでもあります。こうやってしまうと1社の方を名指して言っているようですがけれども、実はみんないろいろなところへ行っているわけです。新幹線の通っている駅で、あれっ、上野が一番汚いという言い方をされると、面と向かって見られないですね。申しわけありませんと。何で謝らなければいけないのだという感じなのですが。

一番がっかりするのは、ことしの夏祭りパレードのときも、最後に「ごみを捨てていいですか」と上野駅の方に聞いたら、「どうぞ、下にごみだめがありますから」、あその駅舎の1階の部分の入り口のところがごみだめになっているのです。これでいいのかという感じですがけれども、ものすごいにおいです。ガードマンの方が、「申しわけございません、においがすごくて済みません」というところを四季島のお客様が出たり入ったりしているのです。あれでいいのかというのは、僕は非常に疑問に思いますけれども、いろいろな事情ですぐに手をかけられないというのはよくわかるのですが、少なくともごみだめを駅の下の入り口のところに置くのはやめてください。

以上です。

○座長 お隣にいらっしゃる方が当事者の人なので、何か。

○委員 地元の皆さんから非常に期待していただいている中で、上野駅という存在がこのビジョンの中でもかなり中心的な議論の的になっているということで、我々もしっかりとこのビジョンに基づいていろいろなことを考えていかなければいけないかなと思っていますので、よろしく願いいたします。

ごみの話も出ましたけれども、物流動線みたいな話も、非常に複雑な駅の中で3つか4

つに今分かれている中でいろいろなことをやっているということなので、今御指摘いただいたごみの問題も、我々も駅舎の正面でああいうことをやっていていいのか、全く同じ問題意識を持っていますので、ぜひ改善していきたいと思っていますので、また引き続きよろしくお願いたします。

○座長 ありがとうございます。今、2つのダブる部分は、杜とまちがダブって書いてあるところは結構駅のところに焦点が当たりがちなのですが、ある意味では杜の機能をそんなところまで持ってくるし、まちもそこまで出ていくみたいな、そういうことをこの絵はある意味では言っているわけなので、受けとめ方は大変JRさんは厳しいとは思いますが、ぜひその意を呈して、もし駅の整備をやれるところからぜひやっていただければいいと思います。

○オブザーバー 上野駅の話で恐縮なのですがけれども、中央口の上のところに猪熊弦一郎の1952年の20mぐらいの壁画の「自由」という作品があります。あれは私も大好きな絵で、あれはなかなか猪熊弦一郎の作品としては傑作なのです。それはほとんど見えない状況になっているのもったいないと思っています。あと、その手前には朝倉文夫の彫刻がこのように手を上げているのがありますので、比較的ほかの駅にはない美術品が結構入っているので、そういった特色も生かして上野駅を美術館のような駅にさせていただけたらと思っています。

○座長 決意表明されますか。

○委員 委員、どうもありがとうございます。我々も当然駅舎を含めてあの周辺、大屋根も含め、あるいはそういう美術品なども駅にいろいろあるということで、駅としても非常に価値のあるものということなので、今回このビジョンに基づいていろいろなことを計画していくのだと思うのですが、そういう中で、今あるそういう価値みたいなことが非常に重要なので重視して計画をつくっていききたいと思っていますので、また御指導よろしくお願いたします。

○座長 ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 大変難しいと思いますけれども、先ほどイコモスとの関係があって最終的にとったのは、範疇がちょうど正面口の表側のところまであって、どこまでできるかといっても今の状況ではちょっと難しいですね。そういうことですね。だから、余り飛び出して言ってもいけないけれども、そういう事情があるので、世界遺産との関係があるからね。そ

れがどうなるかというのを鑑みながら物事を決めていかないといけないのだろう。ただ、私が主張しているのは、「あゝ上野駅」という風格、歴史性、集団就職の歴史、魅力にとっても大事なところであるし、こういったものは山とまちの中心にあるということ、この3つの三位一体がやはり上野の宝ですから、これをぜひ上野のJR東日本の方々を中心に考えていただいて、あと台東区と決めてほしいとお願いします。

○座長 今、状況をおもんぱかっていたいただいて、イコモスとの関係があるのだろうというお話が出ましたが、実際にこの模型をごらんいただいても、杜とまちがつながるところのいわば波形のところはかなりの部分が鉄道施設になっていて、それは下から上まで上がっているので立体的な構造物になっているわけなので、当然のことながら、イコモスの大事にしたいというエリアともダブっていますから、そこでどんなことができそうか、あるいは過去もかなりいろいろ改良を重ねてここに至っているのか、この構造物でできることとできないことが多分あって、その辺もよく最後判断しなければ、なかなか簡単にこうしたほうがいい、ああしたほうがいいとはならない事情もありで、いろいろなものが実は並行しながら議論はしているのですけれども、まだ結論に至っていないというのが現状ではないかと思うので。ただ、方向性としては今のようなイコモスも歓迎してくれるような、まちも歓迎してくれるような駅にもう一度上野の皆さんが手をかけるならば、そういう駅の方へ向かって動く、そういうことは、きょうの御議論がこれでよければ、それについてはそういうものだ、決して杜だけのものでもなければ、まちだけのものでもないということをお話の中でやろうということについて共有できれば、その方向に向かった議論を重ねていくということではないかと思いますが、区から何か説明されますか。

○事務局 今のイコモスの話題ですが、非常にこのまちづくりを進めていく上で課題になっている部分だと思います。ただ、区としては、世界遺産のあるまちとして、これまで登録して3年ですか、そういうあるまちとしてキャンペーンを張って頑張ってきたといった過去の背景もあったりして、このまちづくりを進める上で、世界遺産のあるまちにふさわしいまちづくりをしていく必要があるのだろうと。それが非常に抽象的で、なかなか具体的なルールが今ない中でどう進めていく必要があるのか。

それについては、18ページに「杜～まちをつなぐマネジメント連携体制の構築」の5-①で「地域特性に応じた景観のルールづくり」といったことも方向性として出しています、やはり何らかしらのルール、ガイドラインをつくっていく、そういう全体の中でまちづくりを進めていく必要があると考えているところをございまして、来年度についても

そういったことをガイドラインの作成に向けて作業をしていきたい。この全体の流れ、全体の検討とともにやっていきたいとは考えてございます。なかなか端切れが悪い答え方で申しわけございません。

○委員 それは仕方ないですね。これはビジョンというか、具体的に何がということをお前は求めてしまったので、ビジョンを掲げるのはいいですけども、達成可能なことを言わないと、会社でもどこでもそうですが、そうしないと進んでいかないのですよ。だから、このイコモスも必ずひっかかってくるから、これが最大の問題、ちゃんとJR上野駅の表側の広小路口まで全部範疇に入っていますから、3回目の申請でそうなっていますから、2回目まではその手前だったのに、それがどんどん変わってきている。だから、それがどのくらい指定範囲があるかということをお先に調べたほうがいいかもしれない。それからやってもらったほうがいいと思います。

ただ、私としてはそういう夢を求めているから、上野駅は必ず象徴的なものであってほしいという希望を言っているだけで、余りビジョンを具体的と言ってしまうと何もできなくなってしまうんですが、夢としてはそういうことですから、それは結構です。

○座長 引き続き基盤整備部会では少し議論を、基盤というか、この委員会で継続的に議論していきたいと思おいます。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 この委員会とはちょっと離れるかなと思おいますけれども、実は11月30日の日経新聞をらんになった人は多いと思おいますけれども、別紙でいつも来るのですが、宣伝だと思おって捨ててしまっているのですが、今回気がついたことは、東上野地区4丁目、5丁目の計画が3月20何日に決定をしたと。東上野4丁目、5丁目の計画はどんなことかなということをお連合町会の人かから質問、電話をいただいたのですけれども、はっきりしたことは申し上げられませんが、うわさではちょっと聞いていますということでお話をしておきましたが、いずれまちづくりがありますから、会議があるから、そのときに一応お聞きしてみましようと、こんなことで、日経新聞をとっていらっしゃる方は恐らく別紙をらんいただいたと思おいますけれども。

○座長 今の件に関して何かコメントできますか。

○事務局 ありがとうございます。東上野の地区計画につきましては、ことしの3月20日に都市計画審議会でお都市計画決定されてございます。この地区の計画の特徴といたしましては、まず区役所周辺に公共施設、上野警察署、ハローワーク、消防署などがあって、

公共施設が老朽化していると、一方で人が多数来る交流の場であるといったことで、区役所の北側にあります旧下谷小学校のエリアを公共公益施設の再編、機能拡充といったこと、また、今、上野警察署、またキンコーズとかコンビニエンスストアがあるあたり、あのあたりの土地を高度利用して開発を目指していこうといったコンセプトで地区計画をつくってございます。その地区計画ではまだどのぐらいの高さにするかという高度利用とかそこまでは書いてございませんけれども、今後そういったことを見据えた地区計画をつくって個別の計画に向けた検討をしています。例えば警視庁と土地の入れ替えのことや、そういった協議をさせていただいているということでございます。

あと、先ほどの都市計画決定は3月22日でございます。

なお、このビジョンでは、東上野のエリアを、3ページをごらんいただきますとビジョンの対象範囲という図がございまして、東上野4・5丁目地区をこのビジョンの範囲としています。その事業が今協議させてもらっているのですが、23ページの短期の取組みの具体例の⑤でございますが、駅周辺における多様で質の高い持続可能な都市機能の導入、いわゆる東上野4丁目ということで、ここに平たく言うと開発事業のことを書いてあるわけなのですが、今やっていること、協議していることを事業化して、2020年代で目に見える形にしていこう、実現していこうということで、ここに書かせていただいています。

少し話が長くなりましたが、東上野に関しては以上です。

○座長 都市計画決定をした中身は地区計画の方針……。

○事務局 いえ、方針ではなくて、新たに地区計画をつくりました。

○座長 方針？

○事務局 全体の目標と方針と、この区役所のあるエリアについては地区整備計画を一部入れています。

○座長 例えば具体的にその整備計画は何かというのは。

○事務局 具体的には、区役所の北側にある旧下谷小学校の西側の道路を広げる、拡幅することや、区役所の南側の道路を拡幅するというもの、あとは建物の壁面線を入れるもの、それが整備計画の主なものです。

○座長 おわかりいただけたか、この4丁目、5丁目あたりのところについては高度利用を図っていきたいという大きな方針を打ち出して、それを実現するためにもこの部分の道路は広げていくことを考えますということを経営計画としてうたい、あるいは建築物をつくるときにはこれだけ下がるのですよということについても決めた。ただし、建築

物はどんなものをつくるだとかというのはまだ決まっていない、そのような外側の条件だけ決めて、これからその中の具体的な高度利用の中身については継続的に議論していく、そういう感じですか。

○事務局 おっしゃるとおりです。

○委員 3月22日に決定と書いてあるのですけれども、もうそれは決定しているのですか。

○事務局 地区計画という枠組みは決定しています。

○委員 今度の地区町連がありますね。そのときに恐らく何人かから、町会長から質問が行くかもしれません。それだけ申し上げておきます。

○事務局 かしこまりました。

○座長 後ほど地区計画の決まった内容をコピーしてお届けしたら。

○事務局 かしこまりました。追加でございますけれども、まちの道路を広げるとか、建物の壁面線を決める、そういったルールはつくらせてもらいましたけれども、まだここで市街地再開発事業をやろうといったところまで至っていない。今それは検討中です。

○委員 御丁寧にその記録を見たかどうかわかりませんが、上野駅まで5分と書いてありますから、その辺をどういう意味なのか考えていただければ。

○座長 では、後ほどそのコピーをちゃんとお届けしたらよろしいのではないですか。

○事務局 はい、かしこまりました。

○座長 今のようなことがもし地元の皆さんが知りたいということであれば、例えば先ほどのイコモスの範囲であるとか、あるいは今の地区計画の内容であるとか、参考でもいいけれども、この中に入るわけではないと思いますが、関連するものがわかるようにしてさしあげるのは意見をいただくときには大事かもわかりませんね。ちょっと工夫しましょうかね。

ほかにはいかがでしょうか。

○委員 国際展示場の話がトーンダウンしたというお話だったのですが、もともと成田とかから直結する、将来的には羽田とかとも直結するような予定でいる中で、新幹線もとまるということで、国際性のある観光資源としても非常に豊かな中で、それだけじゃなくて、もう少しさまざまな施設をまちの中に国際的なもの、観光のみじゃなく、何か展示スペースなりシンポジウムを実施するなど、いろいろな新たな交流の場をつくっていったら将来的にもうちょっと発展の余地ができてくるのではないかという趣旨の中で多分国際展示場



という話とかがあったと思うのです。確かに今現状何もない中で需要はあるのかといったら当然ないのだけれども、やはり方向感というか、気持ち、観光客だけが来ているのではなくて、さまざまな層の人たちが来ていろいろなことができるようなまちでありたいという方向感を、この取組みの中で玄関、国際都市の顔にふさわしいという物理的な面だけが強調されて、そういう方向感が足りなくなってしまうのかなという気が、17～18ページのところなのですけれども、そういう気持ちがまちというか、将来に向けてそういうことがありますということを書いていただけたらありがたいと思います。

○座長 もうちょっと強く「国際」という言葉を何かうまく使えないかと。

○委員 そうですね。

○座長 先ほど何かコメントがありましたね。

○副座長 答えいたします。前の案が「国際会議やシンポジウム開催可能なホール」と書いてあって、これは強過ぎるだろうと思ったら、今度弱め過ぎたのかもしれませんが。

○委員 趣旨というか、気持ちというか、一応ビジョンなのでそういう気持ちを何かしら入れていただきたい。

○副座長 御指摘もとてもでありまして、少しこれは事務局とも相談します。

○座長 よろしくをお願いします。

○委員 その件で、私見をよろしいですか。私もお二方の御意見とも非常によくわかる感じなのですが、前のところには「MICE機能」とはっきりと書かれていますよね。ただ、「ホールなど」とあって、実際それだけの大空間を整備できるのかというところも現にあるかとは思うのですね。実際国際会議とかは、どんどん規模の経済性というか、でかいところが勝つみたいなのところもある一方で、独特なホールとか独特なコンベンション会場もまた一方で好まれる傾向もあって、実際、例えば文化の杜の中でいえば、東京国立博物館などは、非常に独特なコンベンションであるとか独特な企業のパーティーみたいなものを2003年、2004年ごろからかなりやっていらっしゃる実績があるのです。実際東京観光財団のMICEの一覧とかを見ても、東京国立博物館とかはユニークなスペースとして非常に推されているところがあるなど、そういう文脈があります。

そういう意味で言うと、前の「ホール」という言い方は、それだけの巨大な、いわゆるホワイトキューブみたいなものをこれからつくれるのかという部分でちょっと疑問が残るところもありますが、一方でMICE機能というのはホールだけではないと私は思っておりますので、そういう意味で、上野らしい、上野の歴史性であるとか、あとは東京国立博

物館などであれば、代えのきかない文化的な価値であるとか、そういうものも生かしたMICE機能の創出といった方向性であれば、折衷的で恐縮なのですが、今までのも生かしつつ、無理のない形で表現できるのかなと思います。

○委員 ただ、スペースがないって、今現在は無いのですけれども、30年ペースで考えれば、今、事務局がおっしゃったように、何かしらはできる可能性もなきにしもあらずで、そういう中で別に大ホールをつくれと言っているわけじゃなくて、さまざまなそういうこともありながら、やはり余地がある可能性もある中で、そういう機能をしっかりそういう場合には組み込んでいくなり、今あるものを生かしながらとか、もともとは東京文化会館しかなくて、そこは音楽ホールでもういっばいで、やはりそういうことができないと、今度ドコモモでしたか、ああいうのもやるのに藝大さんとかあちこち借りてやってなかなか苦しいみたいなことをおっしゃられている中で、そういう需要もあるのではないかと、そういう気持ちとして、ただ、今現在の現実的な直近10年の中でやるのであれば、そういういろいろなことを利用しながら、徐々にいろいろと考えていく余地がある中でという趣旨で。

○座長 少し表現を工夫させていただきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。地元の皆さんから大分御意見をいただきましたけれども、逆にこちら側の国の方たちから何か御注文があればいただきますが、とりあえずはよろしいですか。

○委員 私のほうでちょっと思ったのは、今回写真がいろいろ出てきたのですけれども、結構初めて見るのが多くて、逆に違和感があるのが結構あるというのが正直なところでして、今までなかったからなののですけれども、出てくることによってこの写真は何を言いたいのかがわからないというのが結構ある。少しだけではなくて。こういうのはかなりイメージをつくってしまうので非常に危ないと思って、例えば先ほどの7つの軸とされている中で、ここで左のほうで言うと、一番上もよくわからないのですけれども、3番目も…。

○座長 21ページですか。

○委員 21ページですね。私がよくわからないのは、1番目、3番目、5番目、6番目、7番目が一体何を表現しているのか、例えばこのページだとこれで、ほかにもあるのですけれども、1番目はイベントをやっているのですよね。

○事務局 1番目は上野公園の「省エネあかりパーク」というイベントでして、10月末

から開いていたイベントです。明かりのイベントで、毎年たしかここ数年やっているイベントだと思います。

○委員 何かもっといい写真がないのだろうかということなのですが、要は全然意図がわからないような気がするのです。

○事務局 あと3番の「国際都市の顔に相応しい駅前空間の創出」につきましてはロンドンのキングスクロスの駅の写真を使っています、ロンドンの主要なターミナル駅であって、旧駅舎を活用して復元しながら新たな駅前の広場空間をつくり出していると。

○委員 この図を見てしまうと、駅前にドーム型の建物ができるかのようなイメージを持ってしまいますけれども、本当の駅前の空間のほうがいいのではないかとか、余計なことを伝えてしまっているのではないかと気がするのですけれども。

○事務局 この写真を実現する、同じようにするというのではなくて、あくまでも駅前空間をイメージする写真としてこちらに載せさせていただいているということなのですが。

○委員 これは私だけが思っているのかわからないのですが、何か違和感をすごく持ってしまったということなのですが。

○事務局 あと幾つか、5番、6番、右ページの上から2つ目、3つ目、4つ目だと思うのですが、こちらの「上野を訪れ、上野で住み、働くための都市機能の強化」につきましては、駅周辺、これはドイツのポツダム広場の写真を使っているのですが、その周辺のビルの写真が今入っているのですが、そういう広場周辺の開発を想起させる写真を使わせていただいている。あと、6番の上から3つ目の「エリア防災力の強化」については、低炭素で災害に強いまちづくりというテーマで、田町のスマートエネルギーセンターの写真を使っています。一番下の「エリアマネジメントの推進」につきましては上野のまちの写真を使っています、商店街の街路灯にフラッグをつけたりデジタルサイネージのまちの案内板を載せている、そういったまちの案内機能だったり情報発信機能をここに載せて、まち全体で統一して発信していこうといった代表的な上野の例を使わせていただいているということでございます。

○座長 いいやつがあればまた再検討できますよね。何かいい写真が、先生から、こういうのがあるとおっしゃっていただくと差し替えはできると思います。

○事務局 多分1番とか今御指摘された部分がもう少しこのテーマ、取組みの方向性とマッチした……。

○委員 例えば1番の鎖のチェーンがついたのを消してしまったほうがいいだろうとか、理想を書くのであれば、余計なものばかり目立っているような気がするのです。

○座長 あとは写真としていいものがあるかどうかですね。

○事務局 いいものがあれば、こういう言い方もあれですけども、いいものを探して御相談したいと思いますが、1点だけ、1番の文化・芸術の部分、今、上野公園の写真を使っていますが、逆に上野公園の中のイベントで何かいいものがあれば、これだというのがあれば、後ほどでもいいので。

○オブザーバー 文化の杜で探してみます。

○事務局 わかりました。ありがとうございます。

○座長 では、ぜひお力添えをいただいて。

○事務局 ありがとうございます。

○座長 ほかの皆様からはいかがでしょうか。事業にかかわる方もたくさんいらっしゃるんですけども、何か表現で気になるとかいうところがあれば御指摘いただきますが、よろしいでしょうか。大きな方向性としてはこういうことを目指して頑張ろうということで一旦区民の方、都民の方に見ていただいて御意見をいただくと。

先生方から特に何かございますか。

○委員 1点だけ。次回1月に最後の会があるかと思うのですが、そのときまでに、今現状、24ページの「ビジョンの将来像実現に向けた推進体制」がまだ具体的に見えてこない部分もあるのですが、ここに書き込むかどうかは別にして、これはどのぐらい推進体制の方向感、意思決定のあり方とかそういう部分ですね。そういうことがどのぐらい1月の段階で方向感をお示しいただけるのでしょうか、御質問です。

○座長 24ページの右の下にあるものはもう少し具体的に進むことが考えられそうでしょうか。

○事務局 ありがとうございます。この推進会議につきましては、来年度7月ぐらいに立ち上げ云々という話は先ほど御紹介させていただきましたが、次回に向けて、骨格であったり役割だったり、そういったことはこちらとしても検討して御報告ができるようにさせていただきますと思います。

○委員 本当に骨格の部分と、あと結構いろいろな会議が複雑に重層的になるものですから、それぞれの意思決定のあり方とか機能分担とか役割とか、そういったことは1月の段階でお示しいただけたらありがたいと思います。

○座長 ビジョンの後の進め方に関してなるべく具体的にという御注文でございました。  
ほかには何かございますか。

○副座長 委員の指摘に関連してなのですけれども、私も御意見をいただきたい感じなのですが、基盤整備部会ときはこの写真はこの写真だと全部書いてあって、今回それがとれているのですけれども、確かに市民の方に見ていただくと、いっそのこと、これはどこの例だというのがついているほうが誤解を招かないかなとも思ったりもするのですけれども、どんなものでしょうか。イメージ写真だけだと確かに何を言っているかわからない。はっきりこれはどこの写真でとか。

○事務局 ありがとうございます。確かにどこのまちか、どこをイメージしているのか、どこのまちのどういうものかというのはわかりませんので、場所とかニューヨークに何とかとか、ロンドン何とかとか、そういったことは入れたいと思います。ありがとうございます。

○座長 では、そこは工夫をさせていただくことにしたいと思います。  
ほかにはいかがでしょうか。

きょういろいろ御意見をいただきましたが、事務局から特にさらに重ねて皆さんに確認をしておきたいことはございますか。よろしいですか。

○オブザーバー 上野文化の杜では、ソフトとハードの面で、ソフトについてはいろいろなイベント、先ほどの例えばインクルーシブやアートの活動なども含めて展開してまいりました。そのほかに、こちらでも出ていますように、アートクロスとか、そういったハードワーキングを各館の代表が集まって検討会を開いているのですけれども、私たち上野文化の杜は平成27年につくった報告書をもとに一つずつ展開しております。その中にアートクロス、上野公園口前、袴腰ということを展開してまいりましたけれども、それは検討中ということで今も続いているのですが、その中に「地下モールの活用」という項目がございます。この内容については上野文化の杜では各館の意見だけでは対応し切れないのではないかと考えております。

それについて提案なのですけれども、皆さんの御意見などもいただきたいと思って、次の次のビジョンで検討されてもいいかなとは思っているのですけれども、どのようなものにしたらいいのかと思ってお諮りしたいと思います。よろしくお願いします。

○座長 きょうのビジョンの議論というよりは、むしろ個別の具体的な事業のイメージとして地下モールが挙がっているのだけれども、皆さんのそれに対する受けとめ方はどうか

ということを少しお聞きしたい、こういうことでよろしいですか。

○オブザーバー はい。

○座長 具体的な内容は皆さんには伝わっているのですか。

○オブザーバー 多分伝わっていないと思います。

○座長 そうすると、感想は言いづらいと思いますけれども、もうちょっと具体的にこんなものというのをお話しいただけますか。

○オブザーバー 具体的には特にはないですね。やはり一文がどういったイメージがあるのかとか、あと、この中に、これは私の勘違いかもしれないのですけれども、19ページの絵を見たときに、断面イメージというのがございますよね。そのときに鉄道の下に赤い矢印が通っているの、これはどのようなものを示しているのかなというのがございます。

○座長 19ページの下の方の鉄道の下にあるのが地下モールなのかという御質問だと思うのですが、これは。

○オブザーバー こういった内容が少し計画の中に入っているのかなという、これを見て、はてと思ったのですけれども。

○事務局 お答えします。19ページの矢印の部分ですが、これはオブザーバーがおっしゃっている地下モールのことを指しているわけではなくて、駅の中の例えばアトレさんの通路とか、そういう駅ナカのところをイメージしています。

○座長 下のほうに「歩行者空間の創出（地上・地下）」と書いてあるから、これを消せばいいんじゃないですか。かえってややこしくなっていますよね。基本的には地上を大切にするという理解でいいわけでしょう。

○事務局 地下を通っているところについては、この地下のところですが、これは現状の駅の……。

○座長 先生のおっしゃっているのは、鉄道の下に通っているやつが新しく地下モールをつくるのかという御質問なのですから、今のは答えは違うという答えですよ。地表部にあるのだという理解なので。

○副座長 私から。19ページの断面図ですが、先ほど事務局からお話がありましたように、グレーの「鉄道」と大きく書いてあるJRさんとおぼしき、下の土の中にも「鉄道」と書いてあって、多分こちらが地下鉄かなと思うわけですが、その大きなグレーの下にあるものはオブザーバーがイメージされている地下モールを表現しているものではないです。ちょうどその真下に「歩行者空間の創出（地上・地下）」と書いてある

ので、それは地下に見えてしまうのですけれども、この地下は、矢印が示されているもう少し右に行って、ここは地下鉄の駅の一部みたいなのところも含めて、地下街的なものも含めて大きな歩行者動線をとっていますので、この記述自体はどこかにあったほうがいいかなと思うのですけれども、書いてある場所がちょっと悪いかなという気はいたしますので、そこは調整です。

それから、その前段として、この断面図ではそれは表現していないのですけれども、17、18、19ページあたりの書きぶりで、地下モール話も、もしすごくいい形で具体化が進めば、それは排除しないといえますか、どこかで読めるようには、私はそういうつもりではいました。どこにも地下とは書いていませんけれども。例えば19ページの上の絵の赤い東西の太い線で読むことも可能ですし、17ページの杜まち1-①みたいなのところでもあり得ますので、そういったお話があることは承知をしておりますし、それを全面的に無視しているつもりもないです。ただ、余りにまだ実現がわからないので示唆するほどまでは書いていない、そんな感じです。

○委員 多分オブザーバーのおっしゃっているのは、美術館の上野の文化の杜のメンバーだけで話をしていても具体論につながらないので、この会議なり何なりでもうちょっと展開させていってもらえないかみたいな御趣旨だったのかなと。来年以降の話として。

○オブザーバー そうですね。やるやらないにかかわらず、皆さんの御意見も反映できるような形をとりたいと思っています。

○座長 事業をやりたいという方が出てくるかどうかというのが一番のあれですけれども、そういう議論の場に今のような話が出てくるとなれば、事業を実際やる方がいないとその先にはいかないですよ。

○オブザーバー そうですね。

○座長 ですから、そこがポイントだとは思いますが。あと、地下に仮につくったところで、駅とはつながらないことは間違いがないので、余り駅との接続性はよくないということも事実だろうとは思いますが。

そろそろお約束の時間なので、きょういただいた御意見を少し直させていただいたもので、一旦区民、都民の方に御意見を伺って、ビジョンとしては方向性を示すまでにとどまっておりますが、このことについては何があってもいつかはここに振り返ってたどり着くということで、事業の話は引き続き検討させていただくということをお約束しながら、一旦まとめるという方向で御理解をいただければと思います。

もう一度、いつからパブコメをやりたいかというのだけお話ししていただいけませんか。

○事務局 パブリックコメントにつきましては、きょうの御意見なども踏まえて修正を入れて、12月17日から年明けの1月9日までの間、区民の方に意見をいただきます。

○座長 それはホームページ上にも出る？

○事務局 はい、ホームページにも掲載いたします。

○座長 基本的には、ベースはホームページですか。

○事務局 はい、あとは区民事務所の窓口であったり区の窓口にあります。

○座長 広報紙は出ない？

○事務局 広報にも出します。

○座長 ということで、少し区民、都民の方の目にとまることはありますので、先ほども御質問があったとおり、これはどうなっているのだということが飛んでくるかもわかりませんが、一旦は各コメントの内容を加味しながら、最後もう一度この場で議論させていただいてビジョンとしてまとめる。パブリックコメントにかける素案に関しましては、きょう頂戴した御意見を私と事務局で手直しさせていただいて、恐縮ですが、御一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、一旦これでお返しをしたいと思います。

○事務局 座長、ありがとうございました。

次の策定委員会は、先ほど申し上げましたが、パブリックコメントの実施、また、区議会、都市計画審議会などへの報告状況を踏まえましてビジョンの最終案を御確認いただく予定でございます。日時につきましては来年の1月27日（月）午後6時半から区役所10階で開催する予定です。詳細につきましては追って開催通知をお送り申し上げますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして第5回上野地区まちづくりビジョン策定委員会を終了いたします。御協力をいただきまして、ありがとうございました。

午後5時00分 閉会